

平成26年度 吉野ヶ里町立東脊振中学校 学校評価結果

| | |
|-----------------|--|
| 1 学校教育目標 | 2 本年度の重点目標 |
| 自主的に学び合う生徒の育成 | ① ICT利活用による魅力ある授業実践と学習内容の定着により学力の向上を図る。 ② 生徒理解の促進による開発的な生徒指導の充実を図り、「出番・承認・称賛」により自己肯定感を高める。 ③ 小中連携教育の積極的な実践・研究の推進に努める。 ④ 生徒の個性と能力を伸ばす部活動の推進に努める。 |

達成度 A: ほぼ達成できた
 B: 概ね達成できた
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

| 3 目標・評価 | | | | | | | | 学校関係者評価委員会から | |
|---------------|--------------|-----------------------------|--|---|-----|--|--|--------------|--|
| ① ICT利活用と学力向上 | | | | | | | | | |
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題(左記の理由) | 具体的な改善策・向上策 | 評価及び意見や提言など | |
| 学校運営 | ○教職員の資質向上 | 言語活動の充実に向けた指導・支援を行うことができたか。 | ・生徒が図や文章をかいいて説明したり、発表という形で説明したりする活動を位置付けた単元(授業)を構想し、実践する。 | ・説明のモデルを生徒に示したり、ワークシートを工夫したりする。 ・説明がうまくできない生徒に対し、どうすればできるようになるかを具体的に助言する。 | B | ・すべての教師が研究授業を行い、その中で、グループ活動を中心に、自分の考えを互いに説明し合う場面を意図的に仕組むことができた。授業では、生徒が慣れないながらも一生懸命説明しようとする姿が見られた。 ・年間を通して計画的に実施することはできなかった。 | ・各教科の年間計画を見直し、計画的に授業を行う。 ・ワークシートの工夫だけでなく、ノート指導についても行っていく。 | B | ・すべての教師が研究授業を行っているが、年間を通じた計画的な実施が望まれる。 |
| 教育活動 | ●ICT利活用教育の推進 | 電子黒板の利用率は上がったか。 | ・電子黒板等を利用した授業づくりに努め、稼働率65%を上回る。 ・目的に応じた機器の利用について研究を行う。 | ・電子黒板の操作・活用について、全職員で研修会を実施する。 ・希望者による小規模の研修会を実施し、活用力の向上を図る。 ・公開授業等の学習指導案作成時から、機器を利用する目的を明確にして、効果的な利用となるように検証・改善を行う。 | B | ・年度当初に電子黒板の操作・活用について、全体で研修会を実施した。また、新たにパソコン室に導入されたタブレットPCについても、外部から講師を招いて研修会を実施した。 ・電子黒板の利用率は、67.9%であり、目標を上回った。また、電子黒板を利用しなかった授業においても、その他のICT機器の利用は行われており、教師が授業の内容と目的に合わせ、利用する機器を選択していることが分かった。 ・公開授業においては、学習指導案に機器をどのような場面でどのように利用するかを明記し、学習の効果を検証した。 | ・教師が学習効果を高めるために、利用する機器を選択する段階に進んでいるため、ICT利活用教育の推進の評価については、電子黒板の利用率に限らずに新たな評価の観点を検討する。 ・新しく導入されたタブレットPCについて、効果的な利用を模索する。 | B | ・外部からの講師を招いて研修会をされており、今後も実施していただきたい。 ・教師がICT機器をどのように利用しているかが分かった段階であり、効果的な利用についての検証を期待する。 ・先生方間の研修会も実施し、電子黒板及びICT機器の利用に努力されていることに、授業に熱心に向き合われている姿を評価したい。 |
| 教育活動 | ●学力向上 | 家庭学習習慣の定着率は高まったか。 | ・全校で取り組んでいる自学ノートの提出率が90%以上になるようにする。 ・家庭学習時間1時間以上が80%以上になるようにする。 ・学習内容の定着度の向上を図る。 ・学習状況調査においては、各学年・各教科の向上を目指す。 | ・自学学習の方法や課題の選び方について教え、実施状況を点検し、家庭学習の習慣化を図っていく。 ・定着度の確認を行い、不十分な場合は反復学習や補充指導等により、定着を図る。 ・PDCAのサイクルを機能させて、検証・改善に努めていく。 | B | ・全学年で自学ノートを確実に提出することができた。生徒会と協働し、良いノートを示したり、教師がコメントを加えたりすることで、定着率が高まった。また、自主学習の方法や課題の選び方を示すことで、ノートの使い方や家庭学習の内容も向上した。 ・生徒個々の能力に応じて基礎的あるいは発展的な学習課題を与えることで、家庭学習の内容を高める必要がある。 | ・教師が学習課題を与えるだけにとどまらず、生徒自身に自分の学力や課題について振り返りをさせたい。その過程で自ら家庭学習の内容を検討させることで学力向上を図る。 | B | ・生徒個々の能力に応じた学習課題を与え、家庭学習の内容を高めるよう努力していただきたい。 ・成果以上に熱心な指導体系がうかがえる。 |

| | | | | | | | | | |
|------|-------|--------------------------|--|---|---|--|--|---|---|
| 教育活動 | ●学力向上 | 朝学習、家庭学習の取組で基礎学力は身に付いたか。 | ・朝学習で、学習の基礎・基本の定着を図る。 ・学習状況調査において県平均以上を目指す。 | ・学年ごとに朝学習の課題を準備し、計画・実施する。 ・自主学習の進め方について指導し、課題を与えて実施状況を点検しながら家庭学習の習慣化を図る。 ・反復学習や補充指導等により、学習の基礎・基本の定着を図る。 | B | ・全学年で、基礎・基本の内容を中心に、計画的に朝学習や学習会に取り組むことができた。 ・全学年、自主学習ノートの取組を行い、家庭学習の習慣化を図ることができた。1年生では、自主学習ノートの進め方についての指導を行い、やり方を統一させて取り組ませることができた。2、3年生は個別指導を中心に行い、内容の充実と習慣化を図った。 ・朝学習や学習会において、小テスト等を繰り返し実施し、基礎・基本の内容の定着を図ることができた。 ・学習状況調査においては、県平均に届かなかった教科が数教科あるが、12月と4月を比較すると、県平均との差が縮まっている。 | ・学校や家庭での取組の習慣化とともに、学習支援員の活用も含め、個々の学力に応じた取組や指導を行う。各学年の実態に応じた対応が求められるが、学校として、各学年の求められる生徒像を意識した、系統的な取組を行っている。 | B | ・朝学習で小テストなどを実施して、基本の内容の定着を図るよう今後もお願いしたい。 ・学力を県平均に近づけようとされているが、まだ差が縮まったと言える程度である。 |
| 教育活動 | ●学力向上 | 読書量が増え、読書の幅は広がったか。 | ・学年、教科との連携を図る。 ・図書資料の充実と環境づくりに努める。 ・1人1か月に3冊貸出、年間8,000冊の貸出をする。 | ・学年・教科と連携し、図書に関する情報発信の機会を増やす。 ・生徒が親しみやすく、利用しやすい環境づくりに努める。 ・委員会と協力し、定期的なイベントを開催する。 | B | ・定期的な図書資料の情報発信を行うことができた。 ・全ての教科とまではいかなかったが学年、教科と連携し図書資料を活用できた。 ・委員会の活動と連携し、読書の幅を広げる活動ができた。例年貸出のない本の貸出が増えたことが良かった。また、学校行事での情報発信や季節に応じた過ごしやす環境づくりにも力を入れることができた。 ・12月時点での貸出冊数が4989冊である。1人2.6冊の貸出ができた。現時点では目標に到達していないが、長編小説の貸出が増加し、質のよい読書ができてきている。 | ・引き続き定期的な図書資料の情報発信、委員会の活動と連携したイベントや過ごしやす環境整備に力を入れる。 ・長編小説など活字の多い本の貸出が増加傾向にある。個人貸出冊数の増加はあまり期待できないが、読書の質を高める機会がある。今後、読書の質を高める活動を行いより本から学び、本に親しむことのできる生徒を育成する。 | B | ・委員会と連携し、読書の幅を広げ、例年貸出のない本の貸し出しが増加する傾向なので、連携を強化してほしい。 ・目標貸出冊数に達していない。読書により生徒が得るものの具体性が見えない。 |

② 生徒指導の充実

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題(左記の理由) | 具体的な改善策・向上策 | 評価及び意見や提言など | |
|------|-------------|------------------------------|---|---|-----|--|---|-------------|--|
| 教育活動 | ●いじめの問題への対応 | いじめの早期発見・早期対応に向けた体制づくりができたか。 | ・毎月、生活アンケートを実施する。 ・学校生活が楽しいと回答する生徒が70%以上になるようにする。 | ・毎月、生活アンケートを実施し、早期発見・早期対応に努める。 ・生徒指導委員会に教育相談担当を加え、生徒の相談に迅速に対応できる体制にする。 ・自己肯定感を高める活動を多く取り入れていく。 | B | ・毎月末に生活アンケートを実施し、心配な回答をした生徒には担任が教育相談を行うなど、早期対応ができた。 ・学校以外でのいじめにも対応できるように、質問を「今の生活に満足しているか」に改めて実施した。各月を平均すると、「はい」が61%、「だいたい」が32%であり、肯定的な回答は9割以上となった。 ・生徒が自己肯定感や自己有用感をもてるように、全学級で氏名掲示や一人一役などの取組を行った。 | ・引き続き、いじめの早期発見・早期対応を目指し、毎月の生活アンケートなどの取組を継続する。 ・生徒の変化にいち早く気づくことができるように、職員間の情報交換を密にし、生徒の教室や部活動での様子を共有する。 | B | ・生徒の変化に早く気づき、生徒の教室や部活動での動きを職員間で共有する体制を続けてほしい。 ・アンケートで「満足しているか」に対する回答が「はい」以外の生徒については、疑ってかかると早期発見につながると考える。 ・月1回のアンケートは、先生方のこの項目について早期に対応し、学校生活を楽しいものに導きたいという思いが受け止められる。 |
| 教育活動 | ○生徒指導 | 開発的生徒指導の実践はできたか。 | ・出番・承認・称賛により自己肯定感を高める。 ・時間、清掃、挨拶を励行させる。 ・具体的な行動目標の提示する。 | ・きめ細やかな指導を展開することにより、受容的な雰囲気の中で生徒が充実感をもって生活ができる環境を醸成する。 ・生徒にわかりやすい行動目標を提示し、できたことへの称賛を行い、生徒の意欲を喚起する。 | B | ・挨拶は、教員・先輩だけでなく、来客に対してもしっかりと挨拶をすることができた。しかし、清掃活動は、掃除の仕方や取り組む姿勢が身につけていない生徒も多くみられる。 ・毎月、月ごとの校動目標を提示し、学年掲示板、各学級に掲示を行った。また、学期の初めには、個人で目標を立てさせた。 | ・生徒が自主的に前に立ち、行動できるように、認め合い活動などを通して、生徒が生活しやすい環境づくりを行っている。 ・継続して、月ごとの行動目標の掲示、学期の初めに目標を立てることで、目標・見通しをもった行動をさせる。 ・清掃に関しては、学校全体で掃除する意義、仕方を確認する必要がある。 | B | ・清掃活動は、家庭でなかなか体験しないので、掃除する大切さなどを指導し、体験させてほしい。 ・清掃活動がまだ不十分である。 |
| 教育活動 | ○教育相談 | 教育相談体制はつくれたか。 | ・定期的に教育相談部会を実施する。 ・支援計画や日々の記録を活用し、支援の必要な生徒への共通理解を図る。 | ・スクールカウンセラーを交えた教育相談部会を実施し、相談体制を整える。 ・日々の記録を月ごとにまとめ、各学年の教育相談担当者でチェックを行う。 | B | ・教育相談部会としては、定期的を実施することができなかったが、スクールカウンセラーとの連携はできていた。 ・支援の必要な生徒には支援計画や日々の記録を活用し、ケース会議を開き共通理解を図ることができたが、各学年の教育相談担当者との連携や相談体制としてはまだまだ不足していることが多い。 | ・生徒指導部とも連携し、定期的な教育相談部会を実施する。 ・各学年の教育相談担当者で毎月の日々の記録を確認するようにする。 | B | ・教育相談が定期的にも実施できなくても、今後ともスクールカウンセラーなどとの連携を強化してほしい。 ・相談部会が計画通りに実施できていない。相談体制がまだ不足していると自覚されている。 |

| | | | | | | | | | |
|------|-------|--------------------|--|--|---|--|---|---|---|
| 教育活動 | ●心の教育 | 道徳授業の充実を図ることができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業参観日に道徳の授業を実施し、保護者とともに人権や命を考える機会をもつ。 生徒の心を育てるための道徳授業の展開を工夫する。 資料の収集と教材研究の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ふれあい道徳において、人権や命を主題とする授業を実践し、保護者とともに人間としての生き方を考えさせる。 教職員が資料や教材を共有できるように、使用した資料や教材を共有サーバーに蓄積する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 授業参観日に、ふれあい道徳を実施し、保護者とともに人権や命に関して考えることができた。 各教師間で、道徳の資料や教材の共有はできたが、学校の共有サーバー等に蓄積に全教員が共有することができなかった。 | <ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業や教材について、教員間で協議する時間を定期的に確保し、学年・学級の状況に応じて授業を行っていく必要がある。 資料や教材が共有できるように、年度当初から共有サーバーに入れてもらえるように、共通理解を図る必要がある。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 保護者とともに人権や命に関して考える時間が大切と思うので、今後も続けてほしい。 資料教材の共有が不十分である。 |
| 教育活動 | ●心の教育 | 生徒の人権意識は向上したか。 | <ul style="list-style-type: none"> 教育活動の全領域を通じて、基本的人権を尊重する態度を育てる。 全職員が人権・同和教育の重要性を認識し、研修会に参加する。 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人への理解と個性の伸長を念頭におき、教育の様々な場面で声掛けをはじめ対応していく。 人権啓発につながる平和集会や人権集会などの行事、作文や標語なども生徒会や各部委員会など生徒自らが取り組む活動になるようにする。 人を大切に思いやる雰囲気づくりのできる授業を行う。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 全職員が生徒一人一人の個性を重んじた授業づくりに努め、様々な場面での声かけにも積極的に取り組むことができた。 人権週間では、朝の放送による人権作文の朗読や、人権集会での人権作文の発表、いじめ防止標語の発表を通して、友だちの考えを聞き、自分の学校生活を見直すなど、人権意識を高めることができた。しかし、生徒会を中心とした、生徒自らが取り組む活動までには至らなかった。 全職員が人権・同和教育研修会に参加できた。 | <ul style="list-style-type: none"> 人権意識を高めるため、「いじめ防止標語」の優秀作品の校内掲示は、多くの生徒の目に触れ、効果的だったので継続する。 人権啓発となる平和集会や人権集会などの行事については、臨時に「人権委員会」などを設置し、自分たちの力で計画・運営をしていけば、もっと生徒自身の積極的な活動が期待できると考える。 全職員が積極的に研修会に参加して、人権感覚を磨くことは、生徒の個性を理解し、人を大切に授業実践につながる。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 朝の放送による作文の朗読やいじめ防止標語の発表は、積極的に行ってほしい。 個々の人権意識は高まっているが、生徒会を中心とする集団での意識が育っていない。 この項目に値するのかわかではないが、文化発表会のときにふれあい学級の生徒さんが「自分で作りました」と丁寧なできがりの鉛筆立てを販売されていました。私はそれを今も大切に職場で使っています。先生方が一人一人の生徒の個性を大切にされ、指導されている熱い思いが伝わってきました。こんな日々の教育こそが、心の教育に響いていくのでしょうか。 |

③ 小中連携教育の推進

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題(左記の理由) | 具体的な改善策・向上策 | 評価及び意見や提言など | |
|------|---------|----------------------|--|--|-----|--|--|-------------|---|
| 学校運営 | ○小中連携教育 | 小学校との授業交流はできたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 全職員が東脊振小の授業を参観する。 | <ul style="list-style-type: none"> 小中の小中連携教育担当者が連絡を密にして、授業がスムーズに行えるようにコーディネートする。 教科ごとの打合せの時間を設定する。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 全職員が東脊振小の授業を参観することができ、東脊振小の児童の実態、学習環境等を知ることができた。 美術科では、東脊振小で授業を行うことができた。 毎月1回、小中連携推進会議を行い、連携の具体化を検討した。 小中合同研修会は実施できたが、教科ごとの連携はできなかった。 | <ul style="list-style-type: none"> 小中TTの授業を増やしていく。 児童生徒の交流活動を増やしていく。 教科ごと、校務分掌ごとに、担当者同士が連携を図ることができるようにする。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 今後とも小中連携推進会議を続けて具体化を推進してほしい。 授業交流が美術科だけであった。他教科での交流も望まれる。 小中学校全体、また、全職員で、小中連携教育の大切さと真剣に取り組んでいただいて、成果につながったことを評価したい。 |
| 教育活動 | ○学び合う活動 | 学び合う活動の充実を図ることができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 小中間で情報交換を行い、共通理解するための組織作りや手立てを工夫する。 発問の仕方や、課題の提示の仕方を工夫する。 校内研究や校外の研修を通して、学び合う活動のマニュアルや手引き等を作成し、指導力の向上を図る。 生徒の変容や、取組の成果を客観的に見るための調査を充実させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 小中で相互に授業公開をして、学び合う活動のスキルを高めるように授業研究を充実する。 小中での連絡会をもち、情報交換や合同の活動を積極的に行う。 校内研究の充実を図り、各教科での取組状況や活動の成果・反省などの情報を交換する。 教育センター講座や他校の研究発表会等に参加する。 生徒の意識調査を行い、学び合う活動についての生徒の意見や意識を調査する。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 小中で相互に授業公開を行い、それぞれが取り組んでいる学び合う活動の状況をうかがうことができた。教科や校種は異なるが、その取り組み方や班編成のあり方、ワークシートや発問の工夫などを知ることができ、授業の改善に役立てることができた。 各教科から、学び合う活動で身に付けられる力や、学び合う活動を取り入れた授業・単元などの提案を行ってもらうことで、他教科の取組状況を知ることができ、取組の幅を広げることができた。 3学期に、生徒に対して、学び合う活動についての意識調査を行い、生徒の意見を幅広く集めることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の意識調査を定期的に行い、取組の反省をこまめに行う。 授業公開を今後も継続し、授業の改善に役立てる。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 今後とも学び合う活動を有意義なものにするため、生徒と努力してほしい。 他教科の取組を改善に役立てる姿勢がうかがえる。 職場体験や一日ふれあい教室などで、保育園児と接する場面があり、生徒たちのどの場面でも趣旨を理解した取組に感心させられた。 |

④ 健康と体力、適切な部活動の推進

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題(左記の理由) | 具体的な改善策・向上策 | 評価及び意見や提言など | |
|------|----------|--------------------|---|---|-----|--|--|-------------|--|
| 教育活動 | ●健康・体づくり | 生徒の基礎体力は向上したか。 | <ul style="list-style-type: none"> 保健体育の授業、部活動、学校行事や生徒会活動で基礎体力向上に関する取組を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 日々の体育の授業や部活動に積極的に参加させ、体力向上のためのメニューを行わせる。 行事や生徒会活動で生徒が積極的に体力向上を行えるような取組を行う。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 授業、部活動では体力向上にかかわる活動ができる環境があり、積極的に活動し、体力向上ができていた。 生徒会活動では、体力向上に関する活動を全校でできた。 | <ul style="list-style-type: none"> 運動部に所属していない生徒が他の生徒に比べどの場面も消極的で、活動量も少ないように感じたので、全校生徒が参加する生徒会活動や授業内での活動をもっと充実させる必要がある。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 運動部も文化部も気持ちよく参加する活動を充実してほしい。 体力向上については、目に見える。 |

| | | | | | | | | | |
|------|---------|-------------------------------|---|--|---|---|---|---|---|
| 教育活動 | ○部活動の推進 | 適切な部活動運営ができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 部活動運営計画を実践する。 部活動終了時刻、下校時刻を守らせる。 | <ul style="list-style-type: none"> 部活動顧問者会議を開催する。 全職員の共通理解実践できる指導体制を作る。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 部活動運営について、部活動運営計画に沿って実践することができ、職員の積極的な活動で体力も向上し、成績も地区や県の上位に上がった。 全職員が、部活動終了時刻、下校時刻を守らせることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> 部活動顧問者会議を定期的で開催する。 全職員の共通理解実践できる指導体制を作り改善し、活動を充実させる。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 職員、保護者とも部活動終了時刻、下校時刻が守られて、事故などの発生がないのが良い。 成績については、一部の生徒のもので、全体のものではないと考える。 地区中体連、県中体連、また、県吹奏楽コンクールにおいて、素晴らしい成績を残してくれたのは、地区民としても誇りに思うことで、生徒の日々の努力がうかがえる。 |
| 教育活動 | ○安全指導 | 生徒の安全意識を高めることができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の交通事故ゼロをめざす。 生徒のヘルメット未着用などの違反ゼロをめざす。 | <ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室を実施する。 避難訓練を2回実施する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室を実施することができた。 火災・不審者対応の避難訓練を実施し、生徒及び教員の危機意識が高まった。 本校生徒で、交差点での自転車の事故が発生した。 | <ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室に加えて、交通事故に対する注意喚起を日頃から行っていく。 荷紐で荷物をきちんと結ぶことに加え、反射タスキの着用の徹底させていく。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室をより多く実施、意識を高めてほしい。 自転車事故が発生したことで、不十分と判断すべきである。 |
| 教育活動 | ○保健指導 | 熱中症や感染症に対する理解を深め、予防することができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 保健体育の授業、部活動、学活の時間を通して、病気の予防に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> 保健の授業や部活動時に、熱中症や感染症について意識させるようにし、学活の時間には資料を提供する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 長期の休み前や、部活動の前に熱中症や感染症について意識させることができた。 病気の予防には規則正しい生活が重要だが、就寝時間が遅い生徒が多くみられる。 | <ul style="list-style-type: none"> 感染症については、規則正しい生活が重要であることを学活の時間や保健の授業でもう一度意識できるように勧めていきたい。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 規則正しい生活が重要なので、家庭での生活、就寝時間の調査などを強化してほしい。 熱中症、感染症に対して、日ごろから努力して予防に心がけられている。 |

3 本年度のまとめ ・ 次年度の取組

・ICT利活用、TT授業、「学び合う活動」を取り入れた授業展開などの取組により、学力が向上してきた教科も出てきた。生徒指導上は、大きな事故、問題行動もなく、生徒たちは落ち着いた学校生活を送ることができた。小中連携教育については、合同の研修会や相互授業参観などが行え、9年間で地域の子どもを育てるという意識の基礎づくりができた。部活動には、生徒たちは熱心に取り組んでおり、それぞれの心身の成長を図ることができた。

・学力向上については、教師の授業力の向上を進めるとともに、生徒の家庭学習の仕方について指導し、家庭学習時間が伸びるように家庭への協力を呼びかける。生徒たちは、素直でまじめであるが、やや自己肯定感に乏しいため、体験活動などを通して、達成感・成就感を感得させたい。小中連携教育については、授業交流や児童生徒の交流を増やすとともに、地域・家庭を巻き込んで、9年間で地域の子どもを育てていくよう取り組んでいく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目